



牧浦 真司

ヤマトホールディングス
常務執行役員

経済同友会 つながる▶▶

リレートーク
#241

ジャパンパッシング?



大海 太郎

タワーズワトソン
取締役社長

今年6月の米国・北朝鮮会談の際に久しぶりに「ジャパンパッシング」という言葉を聞いた。かつて90年代以降に存在感が小さくなった日本に対して、海外の政府や企業が関心を示さなくなった現象を指した言葉だが、アベノミクス以降、最近は聞くことも少なくなっていた。ただ、個人的には日本の運用業界が今後、「ジャパンパッシング」に直面するのではないかと危惧している。

経済的には相対的に小さくなったと言え、日本は1,800兆円を超える家計金融資産や300兆円の年金資産などが蓄積されている資産大国である。しかしながら、これらの資産はこれまで十分に運用・活用されてきたとは言いにくい。

家計の金融資産の大半はいまだにゼロ金利の銀行預金に置かれている。企業年金基金などの多くは人材やリソース不足という状況に現在も変化はあまりない。また、運用機関に関しては規模が全てではないものの、最近の相次ぐ日系の運用機関の合併をしてもグローバルの大手に比べるとまだまだ小さい。

海外に目を転じると、例えば豪州では私的年金の統合によって基金を大型化し、内部の運用体制を充実させている。また、欧米では自社の本業ではない年金の運用に関しては、アウトソースによって必要な専門性を補うようになってきている。両地域とも結果として運用が高度化し、最終受益者がより高い運用成果を享受できている。

政府としても何とか日本の金融資産が資本市場で有効に運用され、日本を含む世界経済の成長に資することを目指してさまざまな施策を打ってきている。今年、見直されたコーポレートガバナンスコードでは、自社の企業年金がアセットオーナーとしての機能を発揮するよう母体企業が取り組むべきとの項目が追加された。

これまで、海外から見ると日本は未開拓の巨大な市場として魅力的な市場と見なされてきた。しかし、このまま行くとわが国は永遠に未開拓にとどまる魅力のない市場と見なされ、世界トップクラスの運用機関からは見向きもされない「ジャパンパッシング」が起こり、日本の金融市場が「ガラパゴス」となることを強く懸念する今日この頃である。

▶▶ 次回リレートーク

松尾 時雄

日本カーバイド工業
取締役社長